

3 - 18 東京湾におけるマルチチャンネル反射法音波探査(1)

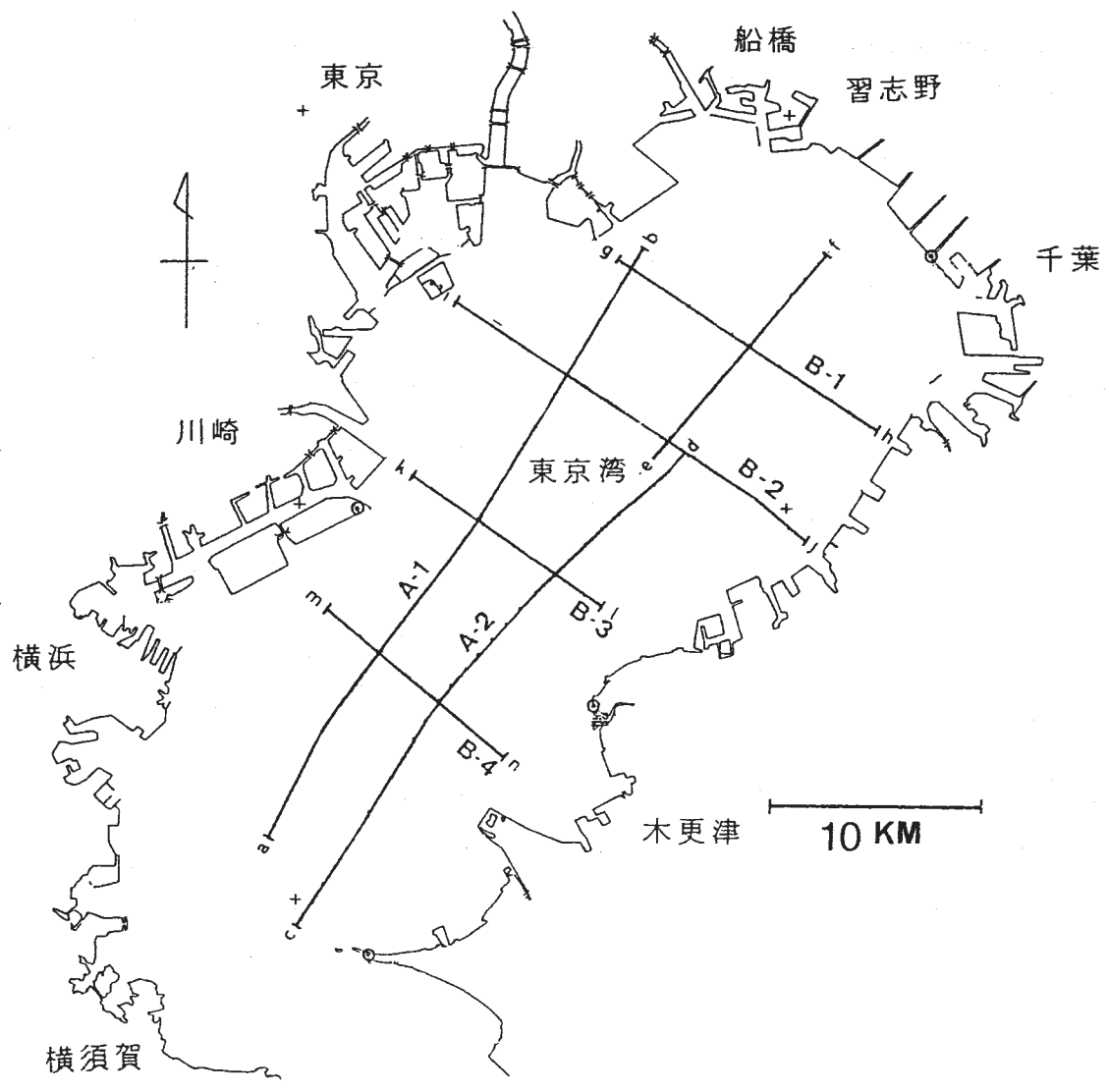
Multichannel Seismic Reflection Profiling in the Tokyo Bay (1)

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

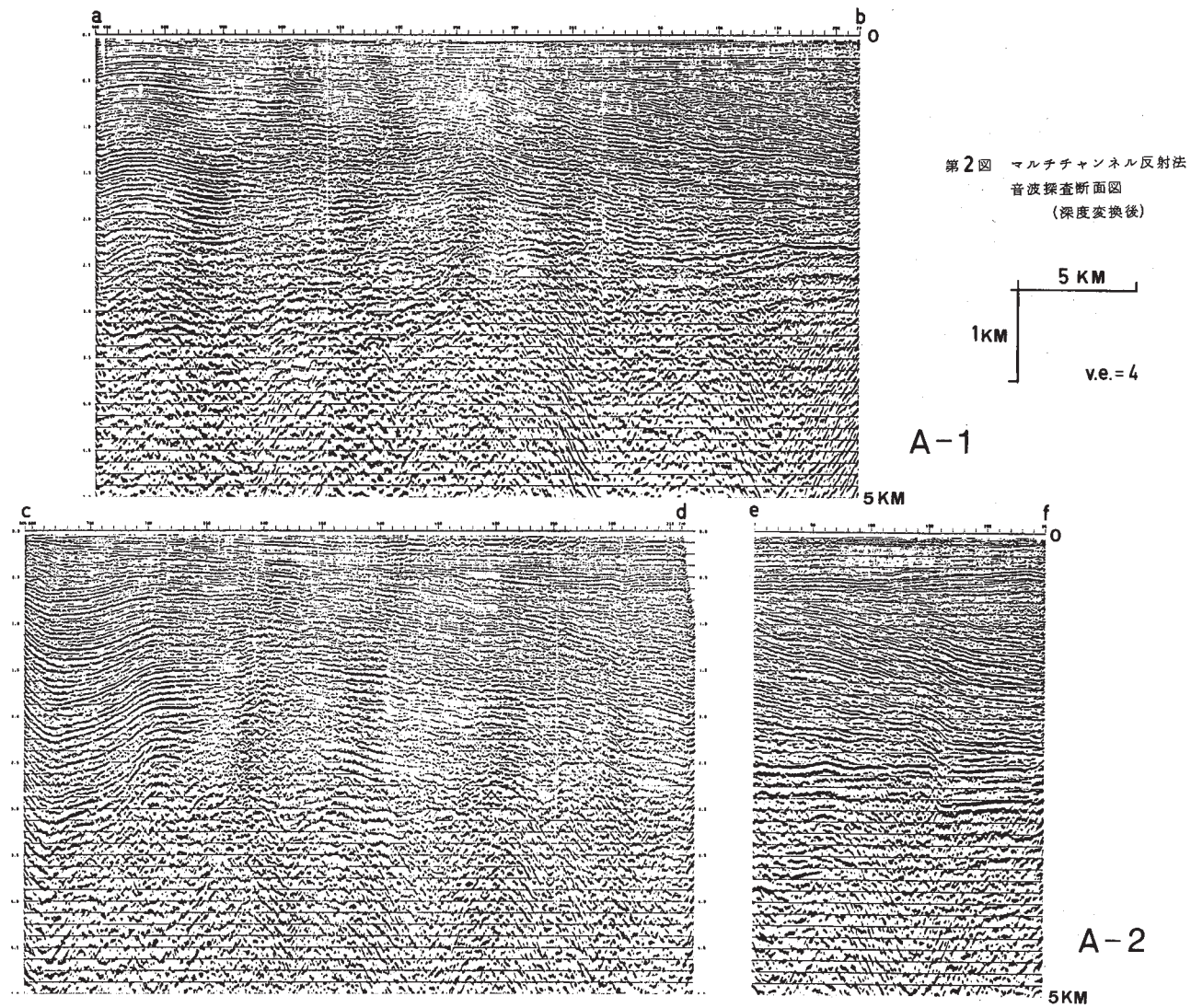
海上保安庁水路部は、昭和57年3月、東京湾において、マルチチャンネル反射法音波探査作業を実施し、その後、この探査データを電子計算機処理し、音波探査断面図を作成したので報告する。この調査は、科学技術振興調整費による「首都圏における直下型地震の予知及び総合防災システムに関する研究」の一環として行われたもので、海上作業及び電子計算機処理は、石油資源開発株式会社に外注して行った。

海上作業は、第12海上丸（約300トン）により、容量8.2リットルのエアガン2基と全長1,200mの24チャンネル・ストリーマーケーブルを用いて行った。調査測線は、第1図に示す延130kmである。また、探査データの電子計算機処理は、デコンボリューション、共通反射点12重合、速度解析、マイグレーション、深度変換等を行い、第2図に示す音波探査断面（深度変換後）等を作成した。なお、水路部では、現在、この音波探査断面図をもとに地質構造解析作業を進めている。



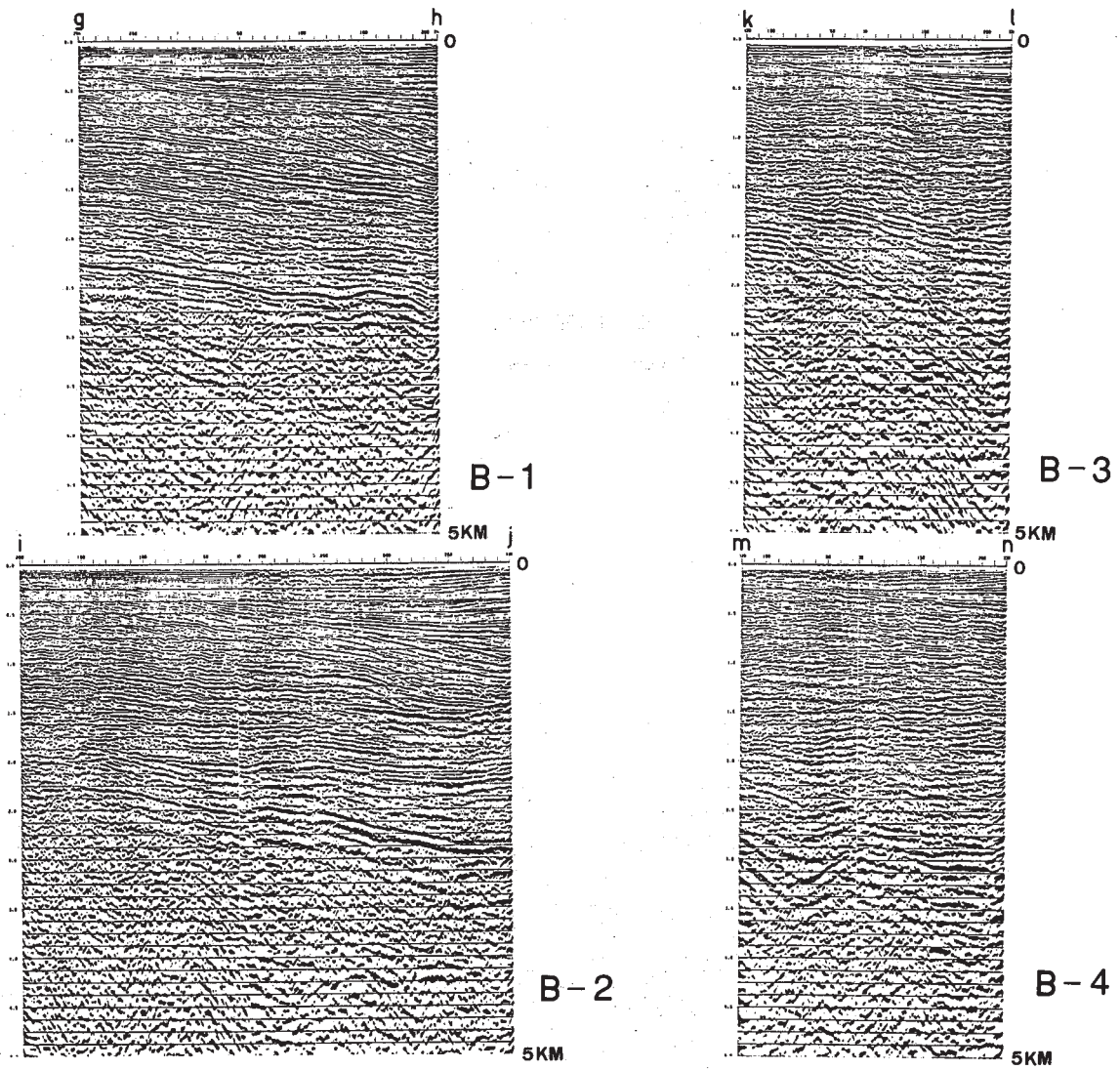
第1図 調査測線図

Fig. 1 Survey track chart.



第2図 マルチチャンネル反射法音波探査断面図（深度変換後）

Fig. 2 Migrated depth sections,



第2図 つづき
 Fig. 2 (Continued)